



【母の信仰と祈り通り成長される子ども】

本日聖書本文:出エジプト記2章1節-10節/暗唱聖句:イザヤ書49章15節 説教者:鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

「女が自分の乳飲み子を忘れようか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。
たとえ女たちが忘れても、このわたしは、あなたを忘れない。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチ信仰のみなさん! ゴールデンウィークの期間中、霊肉心身ともに再充電される時間となりましたか。本日はもう一度我々に与えて下さったお母さんたちの存在を神様に感謝をささげ、お母さんたちはもう一度自分に与えられた神の使命と責任を主の御前で覚え、再献身する礼拝としてささげる主日礼拝です。世界102カ国非英語圏の4万人を対象に“一番美しい英語単語”は何か聞いて見ました。皆さんは英語の単語の中どんな言葉が一番美しい単語だと思いますか。そうです。それは“Mother(母)”という単語が1位でした。2位は何だだと思いますか。残念ながらそれは父ではなく、パッション(passion)、3位は笑顔(smile)でした。残念ながら父という単語は10位内にも入らなかったようです。

私が小さいころ、ある瓶に入っていた薬が甘い飴だと勘違いしてしまい、瓶に入った薬を全部飲んでしまった事があります。そして、しばらく経ってから腹痛でお腹がどんどん痛くなり、顔も青白くなり、寝転び始めると、この事情を知った父は何とバカなことをしたのかと怒り、あたふたしながら私にあれこれ言われるばかりでした。“なんでこれを飲んだの。だれが薬をそこにおいた。トイレに行こうか、とりあえず、全部吐くようにしなきゃ、救急車電話した方が良いのか、どうしよう”

ところが、母は私がいかに感じ、すぐ抱いてどこが痛いのか心配してくれました。あまりにも痛かったので瞬間的に意識を失った私を救急車におんぶして連れていき、病院に着くその時まで“主よ。お願いします。どうか我が息子を是非生かしてください!”と泣きながら祈って下さったそうです。6歳頃だと思いますが、今になってもその時私を抱いて泣きながら切実に祈ってくれた母の祈りの声を覚えています。どんなに間違っても、どんな代価を払っても自分の子を最後まで抱いてくださる方が母であるがゆえに母という言葉がこの世の人々にとって一番美しい言葉になっているのではないのでしょうか。

聖書にはその時代時代に尊く用いられた多くの信仰の人物が登場します。なのに、その信仰の人物を育てた母はどれであったのかについて彼の父親の名前は聖書でよく記録されていても、聖書が記録された時代や家父長制(かふちようせい)社会により、父親よりわりと母親の存在は記録されない時が多く、時にはそんなに大した関心も、注目もされなかった傾向(「アムラムにアロンとモーセと彼らの姉ミリアムを産んだ」(民数記26:59))があります。信仰の人物が選ばれずばらしく用いられ、祝福されたのは全的な神様の恵みでしたが、神はかならずその家庭の信仰の親を通して、特に信仰の人物の背後には、必ず信仰の人として育てさせ、整えさせるために用いられた信仰のお母さんたちの存在は欠かせません。聖書にもたとえ、ダビデの曾祖母ルツ、サムエルには祈りの母ハンナ、バプテスマのヨハネの母エリサベツ、テモテの母ユニケなど大切に記録されていることが分かります。

先月から、毎朝早天祈り会には出エジプト記が続き、モーセがだれなのか、モーセによる出エジプトの話がもうみなさんもよくご存じだと思いますが、もし、モーセの母の名前をご存知の方はいらっしゃいますか。「ヨケベデ(Jochebed: 神は栄光であられる (God is glory) 意味」という名前の母でした。

「アムラムの妻の名はヨケベデで、レビの娘であった。彼女はエジプトでレビに生まれた者で、アムラムにアロンとモーセと彼らの姉ミリアムを産んだ。」(民数記26:59)」

1. 今日の本文の背景

今日の御言葉の時は今から約3500年前、B.C. 1537年-1524年、つまりエジプトのヒクソク王朝18代目の王朝の時でした。ヨセフがエジプトに売られ、神の恵みによってエジプトの総理となった後、ヤコブの全家族が約70人がエジプトに移住して以後、1世代、2世代、3世代、4世代が経って400年が過ぎて、エジプトでイスラエルの男の人数だけで60万人(民数記11:21)で、全部合わせて約200万人に至るほどの多くの勢力になりました。

出エジプト1章7節によると、「イスラエルの子らは多くの子を産んで、群れ広がり、増えて非常に強くなった。こうしてその地は彼らで満ちた。」と書かれていたようにエジプトにおいてイスラエル民族は彼らが恐れるほどの民族として増え、成長しました。エジプトは当時、太陽の神を拝むファラオの王国でした。

ところが、創造主なる神様を信じるイスラエル民族がおびたしくふえ、強くなって来る事を恐れたエジプトのパラオ王はイスラエル人の成長と繁栄を恐れ、彼らを抑制(よくせい)する対策を立てます! イスラエルの民は、エジプトの奴隷として、抑圧され、働かされて、二つの町が建てられたのが、パラオ王のための倉庫の町ピトムともう

一つの町がラメセスでした。これらの町はイスラエル民族の重労働により建てられた当時エジプトの中巨大な都市でした。イスラエル民族として生まれたのを不幸に思わせ、絶望と恨みの中自分の民族を憎むようにとさせようと狙いながら、同時にイスラエルの民の健康を奪って、受命を短縮(たんしゅく)させ、イスラエル人を自分たちの永遠の奴隷、労役の手として使おうとしたのです。

その一つは虐待と重労働を通して、イスラエルの民を弾圧(だんあつ)させ、圧迫(あっぱく)させましたが、ところが、苦しめれば苦しめるほど、イスラエル民族がさらに増えつつ、強くなって来たことが分かります。

「そこで、彼らを重い労役で苦しめようと、彼らの上に役務の 監督を任命した。また、ファラオのために倉庫の町ピトムとラメセスを建てた。12しかし、苦しめれば苦しめるほど、この民はますます増(ふ)え広がったので、人々はイスラエルの子らに恐怖を抱くようになった(出エジプト記(Exodus) 1章11—12節)」と聖書には書き記されています。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん、山の木は風が吹けば吹くほど、もっと強くなり、その根を深く下ろすみたいです。同じくイスラエルの民族がエジプトで激しい試練と苦難を通して、むしろ神様に頼る信仰がますます強くなって神様にさらに叫び求めることが出来たのです。そして、神を信じる信仰はイスラエルの民を信仰によってさらに一つにさせる力となりました。

ファラオはイスラエルの民に思い労役で苦しませて、イスラエルの民はさらに増え、強くなって来た為、次は、残酷に生まれて来るイスラエルの男子たちをナイル川に捨てて殺すように命じる虐殺政策を命じました。

出エジプト記1章22節「ファラオは自分の全ての民に次のように命じた。「生まれた男の子はみな、ナイル川に投げ込まなければならない。女の子はみな、生かしておかななければならない。」

2. 信仰の結婚&信仰の家庭が祝福の源です。

こんな厳しい状況の中で、あるレビ人がレビ人の娘を迎えめとったと書かれています。本来のレビ人というのは祭司として神様のために礼拝し、仕える仕事をしていた神に選ばれた部族でした。しかし、その当時、エジプトの奴隷の身分であったレビ族は祭司が必要な時でもなく、聖殿もありません。ですから、何の役割も、働きもなく、別にレビ族のアイデンティティもない時代で、別にレビ族はだれと結婚してもかまわなかったかも知れません。イスラエルの他の部族か、世の出生か成功を願ったならば、神を信じないエジプト人との結婚がより増しだったかも知れません。なのに同じレビ族の男女が結婚したことは神に選ばれた部族、レビ族として共に神の使命を保ち、いつか神がご自分の民を回復させてくださる時、かならず、神に礼拝を捧げる尊い奉仕が出来る日を待ち望んでいた信仰の持っていた親であったのに間違いありません。みなさんの全ての家庭が信仰の家庭となりますように！是非子供たちに祈る時、今からでも将来の信仰の配偶者と出会えるようにお祈り下さい。そして、是非今から信仰をしっかりと持っている伴侶者と付き合い、信仰の家庭を築き上げることを何よりも大切に教えてあげてください。それがどんな環境や状況に置かれても神の祝福を頂ける始まりであることを共に覚えて頂きたいと願っております。

結局、この真実な信仰の夫婦、家庭の中で生まれる子供たちも当然神に祝福され、大いに用いられます。ヨケベデを通して、3人の子どもを神は授けて下さいます！一番目娘ミリアムが生まれ、二番目アロンが生まれました。そして三番目末子のモーセが生まれます。将来、この三人はみな神に用いられる人々になります。ミリアムは詩人でありながら、音楽家として、神様を賛美する時イスラエルの民の先頭に立ち導く人となり、陰でモーセを助けた人でした。兄のアロンは祭司長として、モーセはイスラエルの信仰の指導者となり、イスラエルの民族を救う指導者としてモーセと一緒に用いられました。神様の御心をなすための信仰の出会い、神様のために築き上げようとする信仰の家庭こそ、代々に神様に用いられ素晴らしく祝福される家庭であることを教えて下します。神はこの信仰の家庭を通して信仰の親のもとで人々を整えさせ、将来大いに用いてくださるのです。

3. モーセの母ヨケベデの信仰と祈りの力

ところが、みなさん。モーセの母ヨケベデが3人目モーセを妊娠した時が先ほどちょうど男の子が生まれるなら、ナイル川に捨てて殺すように命じられていた真っ最中で、もっとも厳しい現実(げんじつ)でした。エジプトのパラオ王の命令により、もしイスラエルの男の子が生まれるなら、すぐナイル川で捨て殺さなければならない危険な状況に襲われ、ヨケベデはただ神に頼り、神の格別な御守りを信じ、生んだこともが息子モーセだったわけでありました。当時ミリアムは10才、アロンは3才でした。聖書には具体的記録はされてないですが、モーセの母ヨケベデは生まれるモーセの命と安全のためにどんなに祈られたのでしょうか。

特にモーセが生まれる当時は特に男の子が生まれてはならない時に、もし息子だったら、殺さないといけない悲劇が待っていたので、特に息子が生まれる事は決して喜ばしいことではなかったと思います。それにもかかわらず、モーセの母ヨケベデは神様が預けて下さったこの尊い命を主が格別に守って下さる事を信じて与えられた命を生も

うと決心します。

どんなに切迫（せっぱく）で切ない気持ちで神に切に祈り続けたでしょうか。ですから、モーセは生まれる前から胎内から母ヨケベデの祈りによって胎教（たいきょう）され、育てられたでしょう。もしかすると、ある時は息子でないようにと期待しつつ祈ったかも知れません。結局、生んで見たら、不安だった事が現実になりました。息子でした！しかし、生まれて来たこの赤ちゃんの命が神から与えられた尊い命であると信じ切っていたため、モーセの親はいのちをかけながらも、ファラオを恐れず、この生まれた命を守ろうとしたことが分かります。残忍にナイル川に捨てられ、殺されるべき運命の赤ちゃんを3ヵ月も隠しながら、母ヨケベデはモーセの為、日々全能なる神主がこの息子を助け、守り、救い出してくださいように切実に祈ったのか十分想像出来ます。ですから、モーセは胎内の時から、生まれても、日々祈りで育てられたのに間違いありません。

ヘブル人への手紙 1 1 章 2 3 節「信仰によってモーセは生まれてから三ヶ月間、両親によって隠されていました。彼らがその子のかわいいのを見、また、王の命令を恐れなかったからです。」

しかし、三ヶ月間はなんとか隠れて育てましたが、これ以上隠し知れない状況になってしまった時、パピルスのかごに入れてナイルの川に流す決心をした時にも、どれほど、神に切なる思いで、泣きながら祈ったでしょうか。このパピルスのかごがノアの箱舟のように、神の全能なる御手がモーセとともにあり、モーセの命を救われ、守って下さるよう。

神にこのモーセのいのちをゆだねて、ヨケベデと全家族はこの息子をパピルス製のかごに入れて、ナイルの川に流しました。3 節に瀝青（れきせい）と樹脂（じゅし）を塗ったのは水が入らないように防水と、水に浮かびやすくするためでした。このような準備の過程においてもやはり信仰の祈りは伴われたと思います。信仰によってナイル川に浮かばせました。モーセの母ヨケベデはどんな気持ちで浮かばせたでしょうか。もちろん祈る心で一杯だったでしょう。神から預けられたこの幼い命を神に委ねつつ、ナイルの川に流せた後でも、自分の代わりにモーセの姉であったミリアムにしばらく追いかけるようにと言いました。なぜなら、母は姿と行動ですぐばれやすかったからではないでしょうか。

4. 信仰の母ヨケベデの信仰と祈り通りモーセを守り、救って成長させる神

神様は信仰の母ヨケベデの信仰と祈りを忘れず、その通りにモーセを不思議に守り、導いて下さいます。モーセを入れたこのパピルスの「かご」は訳されたヘブル語で「ターバー」という言葉が使用されていますが、この言葉は旧約聖書でノアの「箱舟」にのみに使われていた言葉でした。そのかごの中に入っていたモーセは自分の命すら守り切れない人間の無能さと限界のあるそのものでしたが、モーセの母ヨケベデの切なる祈りに神は答え、全能なる神の御手が共にあるパピルスのかごは、ノアの箱舟のように、神の守りと救いを与えて下さる物となりました！

神は不思議にモーセを入れたパピルスのかごが流れ、エジプトのパラオの娘がちょうど水浴びしているところにまで導かれます！当時、エジプトの女らはナイルの川が生産の神だと信じて拝んでいたのも、当時子どもがなかったエジプトの王パロの娘もこのナイルの川に来てよく水浴びをしていたと思います。ところが、自分のところに流れて来たそのかごにこんなにかわいい赤ん坊が入っているなんて、きっとパラオ王の娘はナイル川の生産の神が自分に送ってくれた命であり息子だと思い込んでいたかも知れません。すぐヘブル人の子どもであることを気づきながらも、悲しく泣くモーセを見て、さらにかわいそうにあわれむ心で結局自分が育つ決心をしました。

神が子供のない自分に与えて下さった子どもとして、どんなに嬉しかったことなのでしょう。しかし、乳を飲ませることが出来ない自分の変わりのうばを捜さなきゃというパロの娘と召し使いの女たちの間話をずっと聞いていたモーセの姉ミリアムがこの時だと思って近づき、イスラエルのヘブル人のうばを紹介しますと言って、自分の母であるヨケベデを連れて来ました。

このだれもが考えられなかった人の考えと計画にまさる神の導きと展開は、きっと家でモーセのために涙を持って祈るしかできなかったモーセの母ヨケベデの信仰と祈りを神が答え、用いて下さった御業ではありませんか。

信仰のお母さんたちの祈り、特に、子どもたちの為に祈る切なる祈りに、神様はどんな時であっても、必ずすばら答えて下さるお方であることを信じ、我らもこれからも共にその神様を体験して行きたいと願います。

イスラエル人の男の子であることを知っていながら、敵のパラオ王の娘によって殺されないだけでも奇跡だったのに、自分の息子として受け入れ、また乳母（うば）として、モーセの実母（じつぼ）ヨケベデの下で一番安全に公に育てられるようにと神は導いてくださったのです。これからモーセは他のイスラエルの奴隷の身分ではなく、エジプトの宮殿で王室の王子として育てられ、母ヨケベデは育てる養育費と給料までもらえるように助けて下さいまし

た！モーセ自身も、モーセの家族の生計さえも神によって守られ、救われ、助けられ、満たされるように導いてくださったのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！将来モーセが神様の偉大な指導者になれたのは、完全なる神の導きと深い摂理でありましたが、最後まで神を信じる信仰によって与えられたモーセのため絶えず祈って来た母のヨケベデの信仰の支えがあったからではありませんか。

エジプトの宮殿の中、当時人間の神として、拜まれていたバラオの家門の中に会っても、神を忘れず、神を恐れ、神をしっかり信じる事が出来るまで、モーセの人格と信仰の基盤と成長が出来たのは、モーセの母ヨケベデの存在を決して欠かせません！どんな時にも神のみを信じ続け祈り続けて来たモーセの母ヨケベデのその信仰と祈りによって、モーセがここまで成長出来たのに間違いありません。

敬愛するクリスチャンプレイズチャーチのお母さんたちのみなさん！神によって今預けられている子供たちが当時エジプトのように、今この世の中であっても、みなさんの信仰と祈りによって、子どもたちが一生涯全能なる神の御手の中でいつも神を恐れ、心から神を信じ、神に守られ、大いにモーセのように用いられるように、是非信仰と祈りを持って支え続け応援し続けて下さい。必ず、皆様の信仰と祈り通り、子どもたちは必ず神はそのように成長させ、用いて下さると信じます！)

以前にもみなさんに紹介したことがあります。フランスの歴史を見ると、フランスの歴史を見ますと、歴史上69人の王が政権を握り、国を治めたと歴史に書かれています。その69人中、たった3人の王だけが民たちから尊敬を受けたわけですが、この3人の王の共通点がまず明らかであることを歴史学者たちが強調しています。それは3人の王は自分を産んでくれた実母によって養育されたということでした！他の66人の王たちはみな外部の人たちからのうばのような他人の手からの面倒によって育ったわけです。産んでくれた母を通して、子どもが育てられる事は当たり前かも知れませんが、母を通して惜しみなく注いでくださるその母の愛と愛情は代わりにするものは世の中でないということと、それがどれほど大切であるかをよく表してくれる歴史の教訓であるでしょう。結局母親の惜しまない愛を受け、体験した王こそ、結局民たちをも愛することができるという事実をフランスの王の歴史を通して、私たちは見通す事ができるのではないのでしょうか。

「あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が命じられたとおりに。それは、あなたの年齢が長くなるため、また、あなたの神、主があたえようとしておられる地で、幸せになるためである。申命記5章16節 (Deuteronomy)」

母の存在、母の愛というのが子どもたちにとっては当然のように思われても、このフランスの歴史の教訓を通してでも、どちらにせよ母の存在と愛というのは、子どもたちの人生を決める一番大切な影響力を持っている力である事実を忘れないで頂きたいと祈ります。

普通の母親の愛というものも素晴らしい者ですが、それに加えられ、神を心から信じる信仰と常に祈る母の影響と祝福はさらなるものであります。モーセが将来素晴らしい信仰の人物になった背景には、幼い頃からほかの人ではない、自分の母ヨケベデによる熱い愛とともに、信仰と祈りがいつも共にありました。モーセは40才になるまで当時エジプトのあらゆる優れた学門を学びましたが、母を通して学んだ神についてと神の御言葉、そしてその信仰の学びがはるかにモーセに一番大きな力と影響を及ぼしたのではないのでしょうか。モーセは世の中心、目にも見えない神何かその存在も、必要ともされなさそうなエジプトの宮殿の真ん中においても神様を恐れかしこみながら、徐々に神様に用いられる器として整えられて行きました。

それに対して、ヘブル人への手紙11章24-26節ではこう証言して下さっています。

「信仰によって、モーセは成人したときに、ファラオの娘の息子と呼ばれる事を拒み、25はかない罪の楽しみをふけるよりも、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。26彼は、キリストのゆえに受ける辱めを、エジプトの宝にまさる大きな富と考えました。彼は与えられる報いから目を離さなかつたからでした。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

モーセの母であったヨケベデは、エジプトの奴隷の身分でした！彼女が持っていた物は何もなかったのです。学歴も、財産も、社会的には奴隷に過ぎない立場でした！しかし、モーセのお母さんヨケベデに確かな一つがありました！それはレビ人としての神様を心から信じ、礼拝する信仰と切なる祈る事でした！

みなさん！みなさんの子どもたちはだれの影響が一番多く受けていると思いますか。学校の先生や友達などの影響も多く受けると思いますが、実は母親の生き方、特に信仰と祈り通り、子どもたちは育てられ成長して行く事を今日モーセの母ヨケベデを通して教えられました。当然、世の影響を受けながら、学んでいきますが、母の生き方、持っている信仰こそが子供たちにもっとも大きく影響されるという事を忘れないで下さい。

ですから、お母さんたちは子どもたちに信仰を継承の為、常に祈り、神の御言葉を愛することが、結局そのような信仰の子どもたちとして繋がれ、成長させる源であることを覚えましょう。是非今日のモーセの母親ヨケベデのように子供たちを祈りで養って下さい。困っている時、悩む時、寄り添って共に祈って上げるお母さんたちとなりますようにお祈り申し上げます。みなさんの信仰が成長し、成熟し、祈った通りに、実際、子どもたちもそのとおりに、育てられ成長するその真理を大切に心に留めておきましょう。ほかはなくても、自分の子どもに神様を信じる信仰と子どもたちのために切に祈る母の姿と存在を見せるだけでも、我々の子どもたちはかならず、主にあつてすばらしく信仰が成長し、将来神様に素晴らしく尊く用いられると信じます。

この話をして終わりたいと思います。1人の赤ちゃんが天から地上にもうすぐ降りるように神に命じられました。世に生まれる前日、赤ちゃんは最後に神様と話をしました。”神様が私を明日地上に送ると聞きました。こんなに小さく、力のない赤ちゃんとして生まれて私はどうやって生きようとされるのですか。”神は“だからあなたのためにすでに地上で天使1人準備しておいたのよ。その天使があなたを守ってくれるはずなんだ。”赤ちゃんは”しかし、私は人々の話を知らないですが、彼らの言葉を私がどうやってわかるのですか。”神は“あなたの天使がこの世で一番美しい言葉であなたに話してくれるのよ。そして忍耐と愛をもってあなたが話す事を教えてくれるから心配しないでね。”赤ちゃんは”それにしても私が神様に話したい時どうすればいいですか?”すると、“あなたの天使があなたの手を握ってどう祈ればいいのか教えてくれるよ。”“神様、そしたら、地上には悪者も多いと聞いたけど、その悪者から私をどうやって守って下さるのですか。”“あなたの天使が自分の命をかけてあなたを守ってくれるのだ。その瞬間、すでに地上から声が聞こえ始めます。”“神様、私がもう行かないといけなから、私の天使の名前だけでも教えてくださいませんか。”、“あなたの天使をあなたは“お母さん!”と呼ぶ事になるのだ...”と。

この世で神様の愛と一番似ているのが、まさに母の愛です。しかし、この母の愛は信仰がない母でさえも自分が生んだ子どもに対する愛はみな持っているでしょう。しかし、今日モーセの母ヨケベデをとおして我々は神様を信じる母に与えられている特権を見ることができました。それは愛を越えて、信仰によって子どもたちを育ち、子どもたちのために絶えず祈る母の信仰の力と影響力でした。

こんにち、エジプトの宮殿のようなこの世でも、我々の子どもたちもモーセのような信仰と祈りをもって育つ事ができますように祝福します！そのために、今日も愛する主が母であるみなさんの信仰と祈りの膝を強めて下さって、日々子どもたちのための信仰とハンナのように涙の祈りが止まらないクリスチャンプレイズチャーチの素晴らしい信仰の母たちとなりますように、みなさんによって、モーセのように子供たちが将来大いに祝福され、大いに用いられる信仰の人物たちとして成長し続けられる全クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族となりますように主イエスキリストの御名によって祝福を切にお祈り申し上げます。アーメン！

